

5 様々な地域との共生

人口を奪い合わない移住・交流促進事業の推進及び区民のライフスタイルの選択肢拡大により、若い世代を含めた多世代による秩父市への移住、二地域居住及び交流を通じた豊島区・秩父市の活性化につなげ、両自治体が今後も発展し、豊かな生活を実現できるまちづくりを進めています。



それぞれのライフスタイルによって選べる多様な「移住」のかたち

子育て真っ最中の20～30歳代家族



自然豊かな秩父市で子どもたちをのびのび育てたくて、豊島区民でも入居できる**秩父市有住宅**に引越し。ウィークデイは通勤に便利な区内のシェアハウスで暮らし、ウィークエンドは秩父の大自然を満喫！

子育てが一段落した50歳代夫婦



定年後を見据え、秩父市の「**お試し居住モデルハウス**」を活用し移住を検討。定年後は今住んでいるマンションは資産活用し、秩父に移住の予定。

リタイア後の60～70歳代夫婦



老後は土いじりが夢だったので、夫婦で秩父市のサ高住に転居。週末にはレッドアローで毎週豊島区に里帰り。芝居や映画を観たり、区のイベントに参加したり... 2都市のいいとこどりで充実したセカンドライフ。



秩父市有住宅

秩父への移住や二地域居住を検討している豊島区民を対象に、入居要件を緩和しました。



お試し居住住宅

秩父への移住を検討している方を対象に、3～7日間、無料で利用することができます。



サービス付高齢者向け住宅

豊島区をはじめとする都市部のアクティブシニアを対象に、交流施設と一体型のサ高住の整備を進めています。

全国的なモデルとなる「二地域居住」のあり方の検討

秩父市へ移住後も、移住前と同等の行政サービスを受けられるよう両自治体で検討を進めていきます。

様々な地域と共生・交流を図り、豊かな生活を実現できるまちを目指します

全国的な人口減少という困難な課題解決に取り組むためには、他都市と共に栄えていくことが不可欠です。交流を持つ自治体との連携を進め、「ひと」や「もの」の交流を深める取り組みを推進していきます。連携を図ることで、様々な地域と共生し、共に豊かな生活を実現し、共に地域の活性化へつなげます。

自治体交流・連携の活性化を推進

交流自治体それぞれの強みを活かした連携を深め、地域経済の活性化や人の交流を促進していきます。多様な体験や交流による関わりを通し、区民の豊かな余暇活動や日常生活の充実を図ります。

主な取り組み

- ◆相互交流事業
- ◆さくらサミット
- ◆沿線サミット
- ◆災害時協定の締結
- ◆能代市との教育連携の推進



防災サミットin那須烏山



全国さくらサミットin豊島



西武線沿線サミット

自治体間連携によるカーボン・オフセット事業

地方の固有財源として譲与される予定の「森林環境贈与税（仮称）」を活用し、秩父市との連携によるカーボン・オフセット事業を実施します。区が秩父市に森林を整備しCO₂吸収量を増加させるとともに、森林を活用したダイナミックな自然体験を伴う環境交流事業を実施し、区民への環境教育を促進します。森林整備は平成31年度から段階的に拡大していきます。



秩父市の森林整備候補地

大学等との連携

教育機関である大学との連携により、地域活性化策の共有・研究を進め、独自の活性化策を推進します。

主な取り組み

- ◆区内7大学との連携事業
 - ・としまコミュニティ大学
- ◆大正大学の自治体コンソーシアム（※）
 - ・参加自治体の交流研究活動

※ 自治体コンソーシアム：地方創生の方策を共同研究するため、大正大学の地域構想研究所を中心として自治体が参加して構成する組織

特別区全国連携プロジェクト

豊島区を含む特別区は、一丸となって「特別区全国連携プロジェクト」を展開し、全国各地域の自治体と産業、観光、文化、スポーツなど様々な分野での新たな連携を図ります。

主な取り組み

- ◆共同ホームページ運用によるマッチング事業
- ◆自治体間連携シンポジウムの開催
- ◆北海道、青森県、群馬県、埼玉県、奈良県、京都府、千葉県、広島県の町村会等との広域連携協定締結。